

第3回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日 時 平成29年11月7日(火) 午後6時00分～午後7時12分

場 所 本庁舎3階 第一会議室

出席委員 5人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 松 本 敏 朗 委員 本 間 紀 行 委員

天 野 建 司 委員

欠席委員 4人

委 員 鴨 下 明 子 委員 橋 田 穰 志 委員

小 宮 貴 大 委員 沼 崎 明 大 委員

傍聴者 1人

市長 西 岡 真一郎

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課主査 三 島 雄 介

企画政策課企画政策係主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 1人

(午後6時00分開会)

◎渡邊委員長 第3回の小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を開催したいと思います。

議題が市長懇談ということで、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」施策の効果検証について1件だけ、まだ評価シートができていなかったということで、それをやります。それから、今年度の委員会を締めくくるに当たって、皆様のご感想ということで、まいりたいと思います。

まず資料について、皆様のお手元に4種類あると思うんですけども、ございますでしょうか。この一覧表、第3回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 市長懇談ご意見提案一覧について、これは皆様のご意見をまとめたものでございます。これは、最初の議題で使わせていただいて、後で回収させていただきたいと思いますので、ご承知おきください。

それでは、議題1「市長懇談」を始めたいと思います。各委員よりご発言いただいて、後程市長よりご発言いただければと思います。それではこの資料に基づき、小川先生のほうから何かございましたら。

◎小川委員 私が書かせていただいたのは、保育士確保のために空き家対策をというようなものです。子ども・子育て協議会などでも、保育士の確保が大事であると言われていて。けれども、給与の面ではなかなか難しいところもあろうかと思うんで、空き家対策の一環として、小金井で保育士をなさるとい希望の方には、何か割安な形で提供ができたりするといいいのかなというような思いがありまして、書かせていただきました。

◎渡邊委員長 貴重なアイデアだと思います。

◎小川委員 同じようなことが、留学生のシェアハウスじゃないけれど、そういうので、実際になさっているということもあったので、応用できるのかなと思ったんですけども。

◎渡邊委員長 この辺は、本間さんなんかいかがでございますか。シェアハウス、留学生とか、保育士の空き家対策とか何かで、商売絡みなので。

◎本間委員 そうですね。もう既にいろいろ取り組んでいるところでございます。

◎渡邊委員長 意見はないですか。

◎本間委員 はい。大丈夫です。

◎渡邊委員長 松本さん、いろいろご意見を書いてくれて。

◎松本委員 書き過ぎですか。

◎渡邊委員長 よろしくお願いします。

◎松本委員 30年後の姿をというのが宿題のテーマだったんですけど、30年後というのは、想像もできないくらい変わっているだろうというのが前提です。人としての基本的なところは、そんなに大きく変わらないだろうと思うんですけども、表面的、上層的にはどんどん変わって行って、例えばAIの利用拡大が進み、30年後ぐらいにはもう人知と逆転する時代になるというふうに言われていますから、かなり変わっていくでしょう。だから、30年後を想像するのは現実的には難しいんじゃないのかなということですね。対応策を転がしながら、少しでもよくしていくということを考えていかざるを得ないんじゃないのかなというふうに思います。

世の中が表面的にどんどん変わっていくことを前提にすれば多分、ここに例として挙げているんですけども、市役所の窓口業務というのは全部AIが処理してくれるでしょう。そういう時代に当然なっていきますし、それから、今のままで行財政がやっていけるのかということかなり難しい話なので、おそらく市町村統合といったことも含めて、かなり変わっていくだろうなと思います。

それから、周りを見ても、マンションの老朽化がどんどん年とともに進んでいます。私の家の周りでも、軒下にソファとかそういうものが放り出されているような家が時々、目に入るようになってきました。住んでいる人がどんどん高齢化していきますので、手が回らないというところが増えていく、かなり住環境に影響を及ぼしていくだろうな。それと、環境的に

も、放置しておくとはどんどん悪化していく可能性のほうが高いのかなと思います。

2番目として、現在あるものを見直しつつ対応していくのが、現実的ではないかと思います。小金井市の行政の進め方というのを拝見しますと、その下に3つ並べていますけれども、「小金井しあわせプラン」とか「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とか「行財政改革プラン2020」というのが、今動いていると思うんです。基本的なベースは、そんなに大きくは変わらない。ちょっと楽観的に見ているのか、シビアに見ているのかというような程度の差というのは、いろいろ感じるんですけども、基本ベースを、言い方は悪いのですが、使い回しているような、そういう状況で今、来ているのではないのかなというふうに思います。「行財政改革プラン2020」では極めて厳しい認識が出されていますから、多分そういう目で、これまでの2つのプランを見直していけば当然、変わっていかざるを得ない要素が出てくるだろうなと思いますので、この際、三者を統合して、総合的なプランというものを打ち出していくのが、いいのではないのかなというふうに思います。「行財政プラン2020」では、市役所の建て替えというのを前提にして、庁内の組織対応というのは、市役所ができてから、移ってからだというふうに先送りしちゃうような文章も散見しますので、それはよくないのではないかな、そんなこととは関係なしに、やるべきことをやっていく必要があるので、この時点で、そういう厳しい事情が提示されているなら、それを折り込んだ上でプランの調整というんでしょうか、そういうのを一度やっていくべきではないのかなと思います。

これはこの前も申し上げたんですけども、「行財政改革プラン2020」を拝見しますと、かなり特異な内容になっていると思います。例えば、職員のやる気とかガバナンスとかの問題とかそういうのが入ってきているので、流れがそぐわないのではないのかな。当然、働く人がメインですから、そういう人に働いてもらうというのが前提なんですけれども、本来的に市役所、当局としてガバナンスを効かせてやるべきことまで、そこに折り込まれています。みずから私たちはガバナンスできませんというような文の立て方になっているので、そこはかなり違和感を受けながら拝見しているところです。

大きな、行政として何をやっていくのかというのを支える組織体をどうするかというのは別途、自分たちのガバナンスをどうするかという役職側と、働く方との統合を図りながら、まずやっていかないと、こういうプランに織り込んでも、あまり有効な効果は期待できないのではないのかなと思います。

資料にマスコットの絵が入っていますが、これは「こきんちゃん」と読むんですか、「コガネちゃん」と読むんですか。

◎事務局 「こきんちゃん」です。

◎松本委員 小金井の将来と、このイメージがどうしても結びつかないんですね。果たして前かけをした金太郎さんが、小金井市のこれからの将来に合うかどうか。読み方を変えれば、「コガネちゃん」で、むしろ小金をため込んだ小金井市民というイメージを提供するぐらいの話で、この辺から変えていくことで、若い人なんかも共感できるようなイメージキャラクターという

のが、ぜひ必要じゃないのかと思います。企業だって、どこかでC Iをやって、みんなの理念とか規範というのをもう一回立て直して立ち向かっていくというのを時々やります。これも相当年使われているんでしょうから、そろそろお蔵入りして、新しい時代にふさわしいイメージキャラクターはいかかなと思うので、書いておきました。

3番目は中身の話なので、此处では割愛します。これから何をするかということになると多分、この「まち・ひと・しごと」のメインテーマである創生戦略ということですね。創生戦略は、前の大臣の山本さんが、一にも二にも当該地域の所得アップだ。これが創生戦略の全てだというふうにおっしゃっていたんですけども、確かにそれは一つの要素としてあるのだろうなと思いますから、そこにK P Iがきちんと向き合っているかどうかというのは、検証していく必要があるかなと思います。もちろん経済だけではなくて、住環境、生活環境の質の問題もありますし、もう一つ、先ほど言いましたように行政力のパワーアップの問題があって、この3本で、これから動いていきますので、その辺を考えあわせてやっていくというのが、現実的ではないのかなと思います。

ついでですが、創生戦略で経済力アップということに関して言えば、小金井が、どういうふうにしていくのかなってことが、なかなか見えないんです。いろいろ申し上げて恐縮ですけど、税金なんかを安くしてもらっている組織団体、商工会とか農協団体とかそういうのがあります。そういうところの姿がほとんど見えないですね。気をつけていないから、目に入ってこないだけかもしれませんけれども、そういう団体が一緒に力を合わせてやっていかないと、こういう小さなまちで、経済力をしっかり立てていくという、のは、できない話ですから、もうちょっとその辺が前のほうに出て行って、しっかりとやるべきことというのをアピールしていく必要があるのではないのかなと思います。

「まち・ひと・しごと」のK P Iは市役所側のテーマですけども、そういうところもひっくるめて、大きく戦略というのを構築していかないと、K P Iをやっているだけでは、果たしてそれが本当に小金井市の役に立って、有益な効果をもたらしているのか、あるいは、市民の生活を豊かにしているのかというのは、にわかには評価し切れないところがありますので、もう一回、いろいろな面から考え直していくときに今あるのかなというふうに思いました。

ちょっと長くなり過ぎました。すみません。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。ほかの委員で、今日、欠席されている委員で、鴨下さんは「30年後の将来像」ということで、このグランドデザインを考えるに当たって、なかなか意味深長なことを書いているんですけど、「『時代』に沿って発展し続けていく」ことの必要性を市民に行政は訴えるべきじゃないのかということ、まさにそのとおり。あと、高齢化社会を迎えることを肯定的に捉えることもできるけれども、現実には安心安全を考えると、ちゃんと考えなきゃいけないよというようなことを言われているのかなと思います。

橋田さんが、審議会への女性の参画率を少し上げたらということかだと思います。

それから沼崎さんは、「テレワーク拠点が整備され、自宅近隣で働くのが当たり前になって

いる。プチ起業とかベンチャーまで様々なスタイルの起業家を輩出・育成できる拠点が整備されている」だろうと。「拠点には保育所が併設され、安心して仕事に取り組める環境」をつくると。こういうことをやる。30年後の一つのビジョンとしてですね。

僕は、『2050年の世界』というので、イギリスのエコノミスト誌が書いた本があるんですけども、一応読んだんです。大体想定内といたら変ですけども、今騒がれているAIがどこまでいくとか、ロボットがどこまでいくというような感じでですね。あれによると、一番最初に仕事を失うのがホワイトカラーであると。銀行員が今の1%になるだろうと。行政の仕事もホワイトカラーに近いところがなくなって、現業の仕事が残るのではないのかと思っています。

それからKPI、PDCAサイクルというのは今、行政はやらなきゃいけないからやっているんですけども、この最大の問題は、PDCAサイクルを自己目的にしちゃうことなんですよ。回していればいいやということで回しているという。結局は大学もそうです。見ていると、「何のためにやっているんだよ。」「文科省に報告しなきゃいけないから。」という感じですよ、ざっくばらんにいうと。でも、本当にPDCAを回すんだと、1年じゃ遅いですね。1か月ごと、あるいは毎週ごとにチェックしていかないと、とてもフィードバック制御系としては不完全ですね。不安定になっちゃうんですね。状況がどんどん変わっていくのに、1年前のやつで比較していても、比較できないですよ。こういうことがあるかなと思います。

私が言いたかったのは、小金井の観光資源というのはすごくあるんだけど、PRが下手だなというのか。今はもうちょっとした、日本人もあまり行かないところも、外国人はネットで調べてたくさん来ているんですよ。そういうのを組み合わせていいのかな。

それから、小金井らしい仕事をつくり出すというのは、実は我々も身の回りにたくさん仕事のネタが転がっていて、それに気がついていないだけかも。

それから、いやが応でもこれからAI社会、高度情報化社会というのは進行していくわけだから、ネットワークを介した人間と人間のつき合いを作っていかなきゃいけないのかなというように感じたりしています。

いずれにしろ、この30年後というのは、目先の仕事で考えると、想定しにくいですけども、大きい技術とか社会の枠組みの発展。技術がどこまでいこう。人口はこれくらい減るだろうということを前提にすると、全く架空なことではなくて、現実のこととして議論できるだろうと僕は思っているんですね。先ほどもちょっと市長さんが言いましたけれども、ちょうど45年くらい前に僕が取り組んでいたのが、ようやく今、実現しつつあるという感じです。だから、これから技術、社会がどう変遷していくかということは読めるわけであって、そこからどう作っていくという議論は、できるのかもしれないですね。来年度、小金井市創立というか、60周年を迎えるということで、60周年をスタートポイントと考えて、再スタートをするそのターゲットとして考える。100年か90年かというところかと思うんですけどもね。それはそれで、議論も大いにできるんじゃないかという気がしています。

皆さんからもらった意見をベースにご発言いただきましたが、市長のほうから何かいかがでしょうか。

◎西岡市長　こんばんは。座ったまま失礼いたします。

まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の委員の皆様方におかれましては、さまざまなご議論をいただきまして、ありがとうございます。また、今日、皆様と懇談させていただく機会をいただきまして、感謝申し上げます。ありがとうございます。

前回も、限られた時間でしたけれども、出席された方々からいろいろなご意見をいただいて、懇談をさせていただきまして、今日で2回目の懇談になっております。どうぞよろしく願いいたします。

たくさんのご意見をいただきまして、いろいろな切り口をいただきました。私としては、ご指摘のように、先ほども松本委員からのお話がありました転がしながら、少しでもよくしていくという。現実は今、現状を改善するためにさまざまなことの努力はしているところでございますが、一方で、将来をしっかりと見据えるというんでしょうか。未来を見つめていくということも必要だと思っております。

後ほど、来年、小金井市は60周年を迎えますので、私としては、周年の節目というのは過去を振り返り、現状を改めて見つめ直して、そして未来を描く絶好の機会になる。そんな年にさせていただきたいと思って、今、いろいろな事業に取り組んでいるところであります。

市長としては、社会の動向とかいろいろな未来というものは、世界や社会の動向はもう当然、重要なことではありますし、東京の中心部である小金井市においても、大いに社会と連動しているわけでありましてけれども、小金井市というまちの持続性とか将来像というものを考えていく必要があるのではないのかなという思いも、強くしているところであります。

市がつくる基本計画というのがあるんですけども、大体長くて最初10年。そこから前期、後期といきますけども、目標やプランばかりがたくさんあり過ぎるのも混乱しますし、先ほどご指摘があったように、市にはいろいろなプランがあって、一つにまとめたほうがいいのではないかというご指摘も、貴重なご意見として承りましたけれども、10年先、20年先、30年先の小金井市の将来を予測しつつ、また未来を描いていく。そういう、行政と市民が共有できる議論をしていくという機会も、ぜひ作っていきたいと思っています。

私に与えられた任期は4年間でございます、今度の12月で任期の2年間を迎えますので、ちょうど折り返し地点になりました。この2年間を「行革プラン2020」の策定。今、市が最重要課題と位置づけているごみ問題への対応。あるいは公共施設の老朽化。とりわけ庁舎、福祉会館、清掃関連施設の再整備という何としてもなし遂げなければいけない3つの課題に鋭意向き合ってきた2年間でございます。その他のことも、さまざまな取組をしておりますけども、残りの2年間につきましては、まさに現状を改善するために今、目の前にあることに一生懸命取り組んでいるということに加えて、後期の2年間については将来のことも考えていく。そんな取組にも着手させていただきたいなと思っているところでございます。

市のほうも人口が今度10月10日で、初めて12万人を超えたところであります。昭和33年10月に市が誕生いたしましたので、そのとき4万人だった人口が、すさまじい都市化によって、急激に都市化をなし遂げて、たしか昭和52年に初めて10万人になって、そこから25年後の平成14年に11万人になりまして、そこから15年後の今年、12万人を超えたところでございます。これから、12万人の市民の方々の人口の動向とか、いかに生産年齢人口の減少を食い止めながら、若い世代の方々に定着して住み続けてもらえるか。持続する行政をつくとともに、持続していくまちを作っていくために、行政が何をしなければいけないのかというところも、一生懸命、私たちが考えていかなければいけない課題だと思っています。

その意味で、私は子育て環境日本一を本気で目指そうということを真剣に考えて、この2年間、取り組んできました。ここに着手することが、単なる子育て・子育て支援だけではなくて、いろいろなことに波及すると考えておりまして、今日、子育て環境を改善していくということについての、また皆様方のご教示、ご指導をいただければ、貴重な機会なので、ありがたいと考えているところであります。

ちなみに今度の土曜日、人口が12万人を超えましたので、何か記念のお祝いをしようということで、20年に1回あるかないかのことなので、次、13万人を超えるということはなかなか難しいなど。不可能じゃないかもしれませんが、この面積からいうと、13万人というのは相当な人口密度になります。そういう意味では、この12万人の節目を超えたという、この1万人台の人口の節目を超えたというこの経験は、もしかしたら、これが最後になるかもしれない。この後は人口がいずれ横ばいから減少していくことになれば、人口が増えたという節目を経験したのは、この10月10日が小金井市の歴史の中では最後になるかもしれないので、お祝いをしようということになりまして、その日1日で40人ぐらいの人口が増えたように聞いておりますけれども、人口は転入転出、出生、死亡、その他、市役所1階の窓口で目まぐるしく動いています。

この日に出生届を出した。そして戸籍も小金井である赤ちゃん2人。ちょうど女の子と男の子、ご家族の方と。それから、この日に婚姻届と住民届を、新婚のカップルの方がお二人そろって提出された。つまり、小金井市に住んでいないお二人が、婚姻届と住民票登録をあわせてくださったカップルがいらっしゃったので、この3組の方は今週の土曜日、市役所にお招きして、記念の催しを行う予定です。

ちょっと未来の話とは変わってしまいましたけれども、大いに、記念すべき日なので、記憶に残る1日にしていきたいなと思っています。

まず冒頭、私のほうから以上です。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。

子育て、子育てというのは、すごく重要でしてね。というのは、残念ながらというのか。僕、18から22歳までの若者教育ずっとしてきて、大化けするというのは、なかなかないですね。やっぱり三つ子の魂百までもじゃないですけども。その時代にちゃんとした教育なり何かや

っていて、ゆくゆくその教育のせいで、小金井からノーベル賞受賞者が出たとか、何かそういう、単なるお母さん、お父さんの支援という意味ではなくてですね。何かそういう大きい教育的な目標を持ちながら、そこにやっていくと、これはなかなかおもしろいんじゃないか。それは可能だと思うんですね。

先ほど、事務の方とも話したんですけれども、ノーベル賞というのはチャンスですから。チャンスとは、努力しているものでもないんですね。やっぱりラッキーもないといけない。努力する人がいっぱい出てくると、確率も増えるわけですからね。そういう意味では、すごく重要だなという気がちょっとしました。

市長を交えた懇談会で、何かほかに一言言っておきたいというご発言があれば。

◎西岡市長 私の方から、今いらっしゃっている方からいただいたご提言について、少しコメントさせていただきたいと思います。

◎渡邊委員長 お願いします。

◎西岡市長 では、小川先生からは保育士確保のために空き家対策を活用するというところで、具体的にはどんなイメージでいらっしゃいますか。

◎小川委員 保育士の免許を持っている方はたくさんいらっしゃるわけですね。今、別の仕事をしている方。それから、保育士の免許は持っているけれども、年齢が高い方もいるわけ。免許を持っていて、保育士をやりたいと思っていて、子育てをしているような方が結構いるわけ。そういう方は、住宅のこととかいろいろあったりして、働きたいけれども、働けない状況がある。ならば、小金井で空き家になっているところに入っていただいて、住宅は確保ができる。小金井で新しい保育士として働ける。今、認定保育園とかいろいろできていますよね。そういったところで働けるようにしていくことが、可能になるのはどうなのかなと。

ですから、本当に住宅の補助というような形で、長く小金井に住んでいただけるようにしていけるのではないかなと思っています。

ただ、具体的にどうという細かいところまでは、思いついていないんですけれども、何か空き家対策の一つとして、何かできるんじゃないかなと。

◎渡邊委員長 積極的空き家対策。

◎小川委員 ええ。

◎松本委員 横から口を出してもいいですか。今の話と、さっき留学生の話もされましたよね。実は名古屋のほうで、留学生相手に持ち家をそういうふうに改造して提供しようというNPOから今、ちょっと相談を受けているのですが、非常にニーズは高いみたいですね。

ただ問題は、そこに住む人同士が、ちゃんとルールを守って、住んでくれるかどうかというところが、一番不安とされています。そこは難しいところですね。

それからもう一つは、そういう古い家を建て直して使おうとするわけですね。持ち家が空き家になって、それを改築、改造して住んでもらうという話になると、改修のために腕のいい人をいかに集められるかということが、とても重要な要素のようですね。

そのような仕事をするグループというのは、仲間をみんな持っていて、この仕事は彼、この仕事は彼。それで、その一軒の家をつくっていくんだというそういうグループ化をしているみたいなんです。そういう中で、腕のいいというか、まじめに仕事をするような人を選ぶかどうかというのは、極めて大事な要素になっているようですね。品質もわからないようなものを使って、家を建ててしまっていて、それで提供するというようなグループも、結構いるようですから。そういうちゃんと仕事ができる人たちが、小金井にいてくれれば、一番いい話になりますよね。

◎小川委員 ネットでしか見てないんですけども、小金井にいわゆる工務店さん、かなりユニークな、ユニークというのは技術的に高いレベルの工務店が多いというふうに認識をしていたんですね。ですから、いわゆる仕事のことに関しては、空き家のことで、小金井市内の工務店さんが、かなり活躍できるんじゃないかなというふうに。例えば密閉度のすごく高い家をつくるというような技術がある工務店さんとか。そうすると、家の中が暖かい。要するに冬は暖かく、夏は涼しい家をなんていうようなので、かなり力を発揮しているようなところもあるというふうな見たりしていたので。ほかにもいろいろ、当然、商業の部分もあるかと思うんですけども、随分実力の高い人たちがいるところなんだなというのを感じてはいました。

◎松本委員 腕のいい人はいい人同士でグループをつくっていて、土台を直すのは誰が一番いいとか、壁紙は誰とか、そういうのをみんな共有し合っているようなので、そういう人達が小金井でやれば、すごいのができるかもしれませんね。

◎西岡市長 ありがとうございます。本間さんが実はこの専門家なんですけれども、今、小金井市の空き家の現状なんですけど、未来を考えたときに、こういう空き家がどんどん増えてしまうというマイナスの面の現象も、これから発生してしまう現実がありますので、この空き家対策というのは実は大事な課題になっています。

今、小金井市がやっていることは、まず今、空き家の実態調査というものを行っていきます。まちを何人かの方が、委託していますが、歩いていただいて、空き家がどれぐらいあるのかというのを調査していただいている、もう間もなく集計が終わると思いますが、今の私の認識だと、かなり衝撃的な数字が出てくるのではないかと考えております。こんなにあるのかと。

あと空き家も、戸建てではなくて、マンションやアパートもかなりありますので、そこにもしっかり目を向けていかなければいけないと思っています。

小金井市としては、空き家対策推進協議会というのを設定しましたので、来年度、この実態調査をもとに、小金井市としてどんな取組がいいのかということを議論させていただきます。

もう一方で、少し他市に先駆けて、先行して取り組んでいる例がありまして、8団体の方々に空き家何でも相談ということで、空き家の相談窓口を開設させていただきました。8団体というのは、不動産業界の方々2団体。司法書士さん、行政書士さん、建築士協会、土地家屋調査士さんなどなど、あと金融機関ですね。住宅に関する幅広い方々と協定を結ばせていただい

て、空き家に対する相談を。みんなで得意分野をシェアし合って、相談をしようという取組がスタートしていきまして、電話の窓口は作っていただきましたのと、先般初めて市役所の会議室を使って、空き家何でも相談、住まいの何でも相談というのを開設しましたところ、8人、8組の方々のご相談に来られたというふうに報告を受けました。

空き家の問題を抱えている方というのは、複合的な課題を持っている人が多くて、いろんな悩みを抱えていますので、そういった専門家の方々がいらっしゃることで、少しでもお役に立てればという思いで、この8団体の枠組みをこれから大切にしていきたいと思っております。

今、小川先生がおっしゃったように、空き家対策はさまざまな工事を行いますから、確かに仕事は増える。雇用も増えるという意味では、まちの活性化にも一つつながる好条件だと思っていますし、確かに小金井市にはいろいろな得意分野を持っている工務店さんもいらっしゃいます。例えば多摩産材の家しかつからない東京唯一の工務店さんもあります。地元の多摩の木しか使わないんだという有名な工務店さんもありますし、いろんな方々がいらっしゃるの、こういった空き家対策は、そういう面からも進めてみたい。

ただ、現実問題としては、マッチングや、また空き家を抱えている方々にさまざまな事情がありますので、来年1年間かけて、小金井らしい計画を練り上げていきたいと思っておりますが、ウインウインの関係になるように。地権者にとっても好条件になるし、住む人にとっても、使う人にとっても、いい条件になるし、地域にとっても、いい条件になる。こういったものが一つでも二つでも、成功事例としてでき上がってきたらいいなと思っております。

保育士さんの空き家、あるいは留学生の空き家というのは、小金井は確かに今、待機児解消を目指して、かなりの数の保育園が毎年誕生しています。今年も1年間で353名の定員増を図ったところがございます。それでも、まだまだ待機児解消、これからはばらく続くと思うんですけども、保育士の確保というのは大変重要なので、住居の何かご支援というのは、とてもいいアイデアだと聞かさせていただきました。

また、小金井は大学も多いので、留学生も確かに多いですから。文化や国の事情があるので、複数で住まわれたときに、いろいろな課題はあるのかもしれませんが、確かにそういう状況はあるなという気はいたしました。

◎渡邊委員長 一応、市長さん、市長懇談をご退席になるのは、何時まででしたか。

◎西岡市長 私、まだ大丈夫です。7時過ぎぐらいまで大丈夫です。

◎渡邊委員長 じゃ、この今日の第1議題である市長懇談というのをとりあえず終わりにして、小金井市のまち・ひと・しごと創生戦略の検証が元来、これが我々の仕事です。資料でいうと、評価シート番号1番であります。これだけが、なかなか間に合わなくて、今日にずれ込んでしまったという次第でございまして、これを見ていただくと、指標は、市内の国立公園の面積を市民で割ったものと。これを指標、KPIとして、市民1人あたりどれくらいの公園があるかを示す指標ということで、27年度はDで、28年度、Bということになって、それぞれの委

員からいろんなご意見をいただいております。これ、いちいち読まないで、その結果として、事務局のほうで、一番右側にあるような格好で、コメントをまとめたということで、「人口が増加している中、市民一人あたりの公園面積が増加したことは評価できる」と。分母が増えたにもかかわらず、率が増大した。「都市のライフスタイルにあった公園の使い勝手や安全性等の質の向上に取り組んでほしい。また、公園の活用や使われ方等、人的側面も加味した整備を推進していただきたい。市内で世帯増加率の高いエリアでの公園整備に引き続き取り組んでほしい」という、こんな格好でまとめていただいたということでもあります。

これについて、小川先生、何かありますか。

◎小川委員 小金井には大きな公園が2つありますし、これを見ていると、ただ面積を確保ということだけじゃなくて、松本さんのところにも書いてあるんですけども、小金井公園の改良というようなことを、ただきれいな公園にしましょうということだけではなくて、私は、誰もが健康で生き生きと暮らすということである、健康寿命を延ばすというような目的で意図的、計画的に公園を整備していくというのが、大事だろうと思います。

ドイツなんかでも、森林を歩いて健康になるというようなクアオルトみたいのあるでしょう。あれと同じように、あれだけの公園をただきれいな公園に整備するんじゃなくて、健康増進のために意図的、計画的にしていくことで、医療費の削減とか、実際にそういうような公園を造って活動していることで、市の医療費とか保険の費用が軽減、かなり少なくなったというような事例もあるようなので、小金井でもどうだろうというふうなことを考えています。

そのために健康増進のプログラムとか、いわゆる公園を歩くだけでも、インストラクターというんですか、その人が一緒にいて歩くというようなシステムを考えていくのは、一つどうなのかなというようなことで、公園の機能として健康増進を目的とし、人的側面を加味した整備を考えてみたらどうだろうということを書かせていただきました。

◎渡邊委員長 その健康増進というのは、最終的なところに入れますか、どこかに。

◎小川委員 いえ、これ結構で、いいんですけども。

◎渡邊委員長 言われている趣旨は多分、この中に入っていると思うんですけどね。僕もやっぱり、公園というのは質が問われる時代かなと思ってましてですね。広げりゃいいというものでもない。狭くてもいい公園は幾らでもあるわけ。都市型公園というのは狭くてもいいということかな。人が集って、何となく楽しくて、帰るという。集会所みたいなね。雨降ってないと、今日みたいな日は公園にみんなが集まろうよというような、そういうあれかな。

京都の箱庭なんて、1坪ですけど、あれがあるゆえに、うちがよくなるわけであってね。まちの箱庭じゃないですけども、スポット、スポットで、何かみんなが、あそこに行くとおっとする。誰かと会える。話し合えるという質の向上ですね。それが今後、望まれるのかなという気がいたします。できれば、その辺の公園の整備も、協働で市民にやってもらいと、掃除くらいはね。

◎小川委員 その整備なんですけど、例えば健康増進を意図的、計画的にということである、

ちょっと本で読んだんですけど、階段一つとっても、一つの高さを何センチにして、それを何段つくったりすると、心拍数が上がって、大変よいというような。そういうのは、公園全体でできているということが、できるんだというようなことが出ていたんです。本来は、それは森林に行ったりして、やることなんだけれども、そこまで行くのが大変だから、まちの中でできるようなのを考えていったらいいのかなというような気がしました。

松本さん、何かご意見あれば。

◎松本委員 小金井市でちょっと不便だなと思うのは、一つは、安心して歩けるところが少ないんですよ。ウォーキング用のスペースというか、道路がなくて、車とか自転車が今すごいので、ちょっと路地へ入っていくと、空き巣狙いと間違えられるようで、安心して歩ける環境が少ないのが、一つですね。

それからもう一つは、今、小川先生がおっしゃったんで、ついでに言いますが、小金井公園が本当にもったいないですよ。野球場なのか、サッカー場なのか、テニス場なのか、わかりませんが、利用されるような環境整備されていませんね。すごく広い広場があって、災害時の水をためるといった目的もあるようなんですけど、美的感覚が疑われるようなつくり方になっていて、真ん中にスピーカーの鉄塔を建てているし、サイクリング用の道路は造っているんですけど、歩くとか走る用の道路というのは、きちんと整備されていないし、距離もわからないし。それから体育館の整備も、何かカビ臭くて、非常に環境が悪いのが放置されています。

それは都が所有してどこかに委託してやっているからで、あれをぜひ小金井市に取り戻して、小金井市で市民のために、さっき小川先生がおっしゃったように、ちょっと工夫すれば、すごくいい公園に変えられるんですよ。今、30センチとおっしゃったんですけど、築山が造ってありますが、築山が上がっていく道はもうぼろぼろなんですよ、丸太が組んでありますが、ちょっとお年寄りには危なくて、築山に登ることすらできないような、そんな状況で放置されています。

ぜひ、小金井市で取得していただいて、小金井市として作り直していただければ、大変ありがたいなと思います。

◎渡邊委員長 小金井市に都から管理は委託されて、その分野の費用もいただくとか。

◎松本委員 やっぱり自分のものとして、みんなで大事に育てていくという雰囲気を作っていたきたい。

◎渡邊委員長 なかなかそうは、都はしないでしょうけど。

◎松本委員 今、小池知事だから、言えば、あるいは出してくれるかもしれませんよ。

◎西岡市長 あの体育館は市の体育館です。

◎松本委員 そうなんですか。すみません。さっき言いましたが、ちょっとカビ臭かった。環境があまりよくないという、1階なんですけど。

◎渡邊委員長 最後のシートで、事務局のほうから何かコメントございますか。僕がもう代替

して言っちゃったんだけど。

◎三島企画政策課主査 シートについて、少しご説明をさせていただきます。

まず、最後の評価シートにつきましては、指標が「市民1人あたりの公園整備面積」であります。こちらは、東京都が公表している数値をもとにしております。例年、どうしてもこの発表が、この時期におくれてしまうということがありまして、この評価シートが皆様にご評価いただくまで、ちょっとお時間がかかってしまった次第となっております。

もう一点、いろいろと確認したところ、1個前の年度になるんですけど、平成27年度の数値が昨年度、各委員より評価いただいた際には6.81平方メートル、B評価という形で報告をいただいております。

しかしながら、こちらの数値に誤りがありまして、当初、こちらの数値に、公社等が所有する公園面積も含めた数値ということで、指標のとり方を誤っておりました。今回、その修正を加えさせていただきまして、実際の結果としまして、平成27年度6.73平方メートル、評価としてはD評価という形に修正をさせていただいております。

それを踏まえて、コメントも評価のところも、本来であれば、修正等も必要かと思われませんが、ここの数値と評価が変わっても、委員評価のところも、事務局といたしましては、修正の必要はないという判断をさせていただいたところがございます。もし、この修正に伴って、何か評価等のところでご確認をいただいて、異議等がある際は、ご意見をいただければと思います。問題がなければ、修正をしたこのシートで、進めさせていただければと思いますので、ご確認をお願いいたします。

◎渡邊委員長 皆さんの意見を見ると、数値の問題より質の問題なんです。だから、このことが変わったことで、どうのこうのということは多分、ないと思うんです。だから、このままでいいんじゃないかと思います。

◎松本委員 公園は、規模別に管理されているんですか。データをとられているんですか。例えばさつき坪庭とおっしゃったんですけど、そういう小さいのからでっかい小金井公園までがありますよね。規模が全然違うんですけど、本当に小さいのはどのぐらい、このぐらいのがこのぐらいという規模別管理というのはなさっているんですか。

◎三島企画政策課主査 指標の細かいところにつきましては、ちょっと確認が必要なのですが、シートの指標の説明のところをご確認いただけますでしょうか。市内の国都市立公園の面積を市民で除したものとあるとおりなので、面積の大小というよりも、管理しているところが国なのか。都なのか。市なのか、この指標に基づいて捉えております。

◎松本委員 この指標自体は別に構わないんですけど、小金井市として、公園管理というか、どういうふうに市民生活とマッチングさせていくのかと考えるときに、同じ公園という言葉がついていても、その中身はまちまちじゃないですか。本当に大きいところから、ちょっと薄暗がり、使うのも怖いなというようなところまで、いろいろあるわけですよ。そういう、規模と内容に着目したような整理というのか、それはされているんですか。

◎三浦企画政策課長 小金井市の公園条例というのがございまして、一番規模が大きいのが小金井公園とか都市計画公園でございます。小金井公園は東京都の都市計画公園でございすけれども、小金井市でも都市計画公園がございす。栗山公園は都市計画公園と位置づけてございす。その次に児童遊園というような形で少しコンパクトなもの。さらにその下で緑地というようなものもございすので、条例の中では区分ごとに管理をさせていただいてございす。

◎渡邊委員長 評価シートについてはこんなところで、よろしゅうございすか。

今日、今年、我々が議論した全体の平成29年度の小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会評価結果、ここで案となっておりますけれども、今まで我々がここで議論した全体を整理したのが、これでございます。何か。今までの議論結果だから、これでいいと思うんですけれども、何かございすか。今さら変えても大変で、これでよしとさせていただきたいと思うんです。そうすると、この「案」というやつ、ここでとれるんですか。

◎三島企画政策課主査 各委員にこの案のほうでご確認いただいて、ご了承いただきますと、次に本部で確認をとらせていただきます。その後、この「案」がとれたものをホームページ上で公開を予定しております。皆様にお配りしたものと大幅に変わらないものであれば、そのホームページ上に公開したものを確認いただいて、内容は全く変わらないものであれば、そのお配りしたものを最終のお配り、配付物とさせていただければと事務局としては考えております。

◎渡邊委員長 我々の理解としては、とにかくここで一応検討したやつを全部反映してもらっているから、これでいいのかなと思うんですけれども、一応、「案」つきで、むしろこっちのほうがいいかもしれないけれども、ご承認いただくということで、よろしゅうございすか。今までの議論の成果を冊子にまとめていただいたということだと思っんです。よろしゅうございすね。

◎渡邊委員長 そうすると、今日の主要の課題は大体終わって、最後、感想ということになるかと思っんです。今年度の委員会を締めくくるに当たって、皆さん方に感想をいただければありがたいんです。感想ですから、主観で結構でございます。

本間さんのほうから。

◎本間委員 いろいろな評価がたくさんありまして、さまざま多岐にわたるテーマに関していろいろ考えたり、現状を見てみたりということの繰り返しの中で、いろいろ勉強もさせていただきましたし、あるいはいろいろ問題があるなということは、本当にたくさん気づかせてもらいました。

評価の中でいろいろ書かせていただきましたけれども、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」ということで、重立って、まち・ひと・しごと、それぞれの3つ、分野があるとして、重点項目というのがよくわかりましたし、小金井がこうなってほしいという思いもありました。その辺は評価にも書かせていただきましたし、今後の見通しも大分ついたのかなというイメージがあります。そのとおりに行くかどうかというのは、財源の問題。土地の問題。人の問題、

さまざまありますけれども、有意義な委員会だったなというふうに私は思っております。

私も仕事柄かかわることが、この中に出てくるので、こういったことの観点で仕事をしていければいいなというふうに私自身も思っております。ありがとうございました。

◎渡邊委員長 ありがとうございました。

松本さん、何か感想があれば。全体的に。

◎松本委員 感想ですけれども、審議会が終わって、帰って、いつも反省ばかりしているんですね。何か訳のわからないことばかり言っているなど。夜、天井を見つめて、今日もまた余計なこと、要らんことを言ったと反省をしております。まとめておわびを申し上げます。

ただ、いつも言っているんですが、PFI方式をそのまま単純に運用していくというのは、若干の疑問を持っているところもありますので、小池さんがおっしゃるようなアウフヘーベンじゃないんですけど、違う意見を言ってみて、また皆さんから言って、それで少しでもよくなればというところに私の生きがい、働きがいを見つけながらやっていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

◎渡邊委員長 ぜひ頑張ってください。小金井市をよくするためにも。

天野さん、感想ですから。

◎天野委員 委員長、委員の皆さん、どうもありがとうございました。

国の要請に基づいて、人口ビジョン、それから「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の執行について、皆さんのご意見をいただき、市政運営に生かしていくという趣旨のものでございまして、有意義な意見をいただきまして、ありがとうございます。

それに加えまして、市長のほうから、グランドデザインの策定ということで、皆さんの新たなご意見をいただくというようなこともお願いしたところでございます。ふるさと小金井の新しい時代をつくり上げるためには、新たなビジョンが必要であり、新しい目標と、将来像となるグランドデザインを皆さんと一緒につくっていききたいという市長の意向に基づいて、皆さんにご意見をいただいたところでございます。

いろんな意見をいただき、非常にありがたいなというふうに思っております。30年後というふうに考えますと、日本の社会状況も、人口減少社会というようなことが社会背景にあるわけで、考えていくと、少し暗くなるかなという思いがあるんですけども、先ほど鴨下さんだったか、「肯定的に捉えられない人もいるかもしれませんが」というふうに書いてあるんですけど、明るい小金井市を30年後、できれば描ければというふうに思っております。

小金井市の強みは何かというところで考えると、やはり緑であり、教育であり、それから潜在能力の高い市民の皆さん、こういった力をどういうふうに30年後も生かしていけるのかということを考えていければ、いいかなというふうに思っております。

前回のところで、渡邊先生のほうからいただいたご意見、小金井市の強みというのはやはり教育機関であるというところは、他の自治体、地方の自治体を見ても、やはり恵まれているというふうに思います。それから地理的な状況、都心からも比較的近いというメリット、強みも

ありますので、そういったものをいかに生かしていけるのかということだと思います。

それから、人口減少社会というものと同時に、グローバル化みたいなどころも今後、大きな課題、問題になってくるかなと思っています。先日、関西のほうの視察に私、行きまして、ひかり号に乗ったんです。京都とかだんだん近くなると、外国人の方ばかりなんですね。それだけ今、日本が海外から注目を浴びている。また、来ていただいているということが実際あるわけで。小金井市においては、なかなか観光で外国人の方がいらっしゃるといのは、それほど多くはないかもしれませんが、今後、東京オリンピックということもありますので、そんなことも含めて、30年後のグランドデザインというものを来年、市が市制60周年という機会もございます。

それから、市の最上位計画、基本構想基本計画「小金井しあわせプラン」、渡邊先生と約10年前につくったんですけれども、市の最上位の計画というのは基本構想基本計画でありまして、こちらをまた見直ししていくという時期が、もうじき来ます。30年後の小金井市を見据えながら、10年後の基本構想基本計画というものが、よりリアリティを持ってつくればいいなと思っていますので、引き続き、皆様から貴重なご意見をいただければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

◎松本委員 ちょっといいですか。おっしゃるように、教育はものすごく大事だと思いますし、前回、委員長がおっしゃった小金井を教育ですごい大学の街にするんだということも、ものすごくいいことなんですけれども、それを仕込むためには、まず教員レベルからよくしていかなければいけないですから、時間かかるりますよね。仕込みをどういうふうにするのかというもう少し具体的なところをぜひ見えるようにしていただければ、うれしいなと思いますね。

毎回言うんですけど、小金井市では図書館に課題があると思うんです。

◎渡邊委員長 小金井市が、地域が教員を育てる、大学教員を。

◎松本委員 そうですかね。図書館に課題があるんです、小金井市の図書館というのは。そういう学習環境というか、研究環境というのは、どうなるのかというのが。そういう施設的な問題と教員の問題ですよね。最低でも15年ぐらいかかるんじゃないですかね。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

◎松本委員 すみません、余計なことを言って、相変わらず。

◎西岡市長 東京学芸大学なんかは、小金井市民が利用できるようになっていますよ。

◎松本委員 どここの大学ですか。

◎西岡市長 東京学芸大学です。非常に学術的な、図書館にはふだんないような専門書がたくさんあって、たくさんの方が利用されています。相互利用はかなり進めておるんです。ちょっとPRが足りないかもしれません。

◎松本委員 ちょっと入りにくくて、中に入ったことないんで、一度行ってみます。ありがとうございます。

◎渡邊委員長 小川先生。

◎小川委員 お疲れさまでございました。そうか、30年後の将来かと思ったんですけれども。2012年でしたか、13年でしたか、『雇用の未来』という本が出て、それからもう何年もたっているわけなんですけれども、今ある仕事がいかに変わっていくか。なくなっていくかというようなことを考えながら、ここで、みんなで意見を交換しながら考えさせていただいたわけなんですけれども、いろんないい施策が出てきているんだけれども、予算が絡むというところが本当に難しいなと思います。

それぞれが、例えばこの委員会ではこういうものを出しても、全部通るわけではない。ほかの協議会とか委員会からも、きっといろんな意見が出てきているんだと思う。高齢者の方たちに焦点を当てている。子ども、子育てに焦点を当てている。それから在学している子どもたちに焦点を当てているとか、いろいろなところから出てくると思うんです。今ここで市長さんがいらっしゃるわけなんですけれども、いい施策であっても、賛成するのも市議、反対するのも市議というところの難しさ。かじ取りがいかに大変かなというところを思います。先ほど市長さんがおっしゃっていたように、大きなビジョンのもとで推進していく大切さというのをすごく感じました。

ありがとうございました。

◎渡邊委員長 私、天野さんが言ってくれたので、もう言うことないんですけれども、小金井の財産は教育だと。この教育を小金井の一つの特色としていくのが、一番効率がいいと実は思っています。いろんな取組が可能かと思うんですけれども、例の青少年の科学の祭典に見られるように、大学の先生方も地域との交流を望んでいるというのか、楽しみにしているというところがあるので、何かそういうアクティビティを、今、ボランティア月間にやっているわけなんですけれども、行政のほうとしても少し力を入れてやっていただければ、間違いなく小金井の特色になる。小金井というと教育だということになるだろうと思います。

ぜひ、天野さんもよろしく願いしますということで、市長もよろしく願いします。

僕は皆さんのいろんな意見で教えていただきました。本当に知らないことがいっぱいあって、勉強になりました。ありがとうございました。

◎渡邊委員長 一応、3番目の議題まで終わりにして、その他ということで、何か皆さんのほうからございますか。事務局のほうから何かありますか。

◎三浦企画政策課長 特にございません。

◎渡邊委員長 それでは一応、会議としては、ここで締めさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

(午後7時12分閉会)